

地震・津波県民意識調査における防災意識等の調査結果（速報値）

1 調査結果の概要

- ◆ 主要項目である「津波からの早期避難意識」、「室内の安全対策」は、**前年度から低下し、第5期目標に達しなかった。**
- ◆ 「飲料水・食料の備蓄対策」、「南海トラフ地震臨時情報の認知率」は、**前年度から向上し、過去最高を更新した。**
- ◆ 調査結果を踏まえ、啓発の強化等に取り組み、「自助」・「共助」のさらなる強化を図る。

(調査概要)

調査期間：R6.8.5～R6.9.13

配布数：3,000票

回収数：1,516票（回収率50.5%）

2 調査結果（速報値）

調査項目		第5期目標	調査結果（速報値）	結果の概要
①津波からの早期避難意識率 （揺れがおさまったらすぐに避難する意識） ※「マンション等の高層階に住んでいるため避難しない」割合を除く。		R4：84% R5：91% R6：<u>100%</u>	R4：68.1% R5：77.3% R6：<u>69.7%</u> +9.2ポイント -7.6ポイント	➢ 60歳代・70歳代以上では早期避難意識の増加（+26.1ポイント）が見られたが、それ以外の年代層で一律に減少した。 ➢ R6は能登半島地震を踏まえ、住宅の耐震化等を重点的に啓発したことにより、早期避難意識の啓発が少なくなったことも意識率低下の要因と考えられることから、引き続き、啓発の強化を図る必要がある。
②室内の安全対策実施率 ・家具・家電の固定の対策 ・固定が必要な家具・家電を置かない対策		R4：45% R5：52.5% R6：<u>60%</u>	R4：41.5% R5：42.0% R6：<u>40.4%</u> +0.5ポイント -1.6ポイント	➢ 「家具や家電などを固定している」の割合が増加（+5.4ポイント）したが、「寝室（子ども部屋を含む）の家具・家電だけ固定している」や「固定が必要な家具や家電などを居室内に置いていない」の割合が減少（-7.0ポイント）した。 ➢ 引き続き、室内の安全対策の啓発の強化が必要。
③飲料水・食料の 3日以上の備蓄率	飲料水	R4：41% R5：46% R6：<u>50%</u>	R4：34.6% R5：57.2% R6：<u>73.1%</u> +22.6ポイント +15.9ポイント	➢ 飲料水・食料ともに、約70%の方が3日以上の備蓄ができています。 ➢ 一方で、3日以上の備蓄ができていない人の約40%が「まとまった量を購入する習慣がない」と回答していることから、ローリングストックのさらなる普及啓発が必要。
	食料	R4：41% R5：46% R6：<u>50%</u>	R4：42.3% R5：61.6% R6：<u>73.8%</u> +19.3ポイント +12.2ポイント	
④南海トラフ地震臨時情報の認知率		R4：30% R5：35% R6：<u>40%</u>	R4：25.1% R5：27.9% R6：<u>54.5%</u> +2.8ポイント +26.6ポイント	➢ R6の調査は、R6.8の臨時情報発表直後だったため、認知率が大幅に向上したと考えられる。「聞いたことがあるが、内容はよく知らない(20.3%)」、「知らない(21.2%)」が一定数存在する。 ➢ 正しい理解のもと適切な行動が取れるよう丁寧な周知・啓発が必要。